

幼稚園と小学校との

一貫性

秋山 和夫

本年度から、新しい幼稚園教育要領に基づいた実践が幼稚園で展開されており、来年度からは、新しい小学校学習指導要領に基づいた実践が小学校で行われることになる。

今回の教育課程の改訂を支える精神には、注目されるべきものが少なくない。その中のひとつに、幼稚園と小学校との関係について明確な方向と方法が示されていることは、高く評価すべきことであると
言ってよい。

幼稚園と小学校との関係をどう考えるかという問

題は古くて新しい問題である。和田実や倉橋惣三をはじめとする幼稚園教育や教育の本質を理解した人々は、幼稚園教育の内容や方法を小学校へ拡大していくことの正当性を主張してきた。

これに対して、教育は知識や技能を少しでも早くから、より多く身につけさせることだと考える人達、例えば、早期の才能開発や能力主義による人材育成を主張する人達は、小学校教育の内容や方法を幼稚園に下向させていくことを主張してきた。

幼稚園教育は、この二つの考え方の間をゆれてきたというのが現実であろう。

今回の教育課程の改訂においては、幼稚園から高等学校まで、「学ぶことの楽しさ」や「成就感」、さらに「自ら学ぶ意欲」を重視している。

かつて、倉橋惣三は幼稚園では子どもが「生活の満足」を味わうことが大切であると強調した。生活の満足は、楽しく学び、楽しく活動できること、そ

して、成就感が味わえることなどがその条件となる。この点でも、幼稚園教育の原理が小学校教育の原理として拡大されていったことになる。

また、「自ら学ぶ意欲」を重視しようとすることは、子どもの主体的な自己活動への着目である。幼稚園教育は本来、子どもの自主的、自発的活動を促すことを重視してきた。

更に、今回特筆すべきことは、小学校低学年に、これまでの「社会科」「理科」を廃止して「生活科」が新設されたことである。

生活科を簡略に言えば、子どもの「具体的な活動や体験を通して」「総合的に指導」する教科である。幼稚園教育も幼児の具体的な活動や体験を通して総合的に指導するところにその特質を有する。また、生活科では「遊びや生活を工夫」することが教科の目標として挙げられており、教育内容として遊びが位置づけられている。この意味でも、生活科は

幼稚園教育に近い教科である。

また、小学校低学年の国語においては、「聞くこと 話すことの指導の重視」が挙げられており、算数では「具体的な操作などの活動」の大切さが指摘されている。

生活科を熱心に研究している小学校教師は、異口同音に幼稚園教育を理解することの必要性を訴えている。それは、生活科の教育を確立していくためにも、新しい小学校教育を展開していくためにも、幼稚園教育の理解が必要不可欠とされているからである。

従って、望ましい幼稚園教育を確立して、それを小学校教師に提示していくことが、幼稚園教師の責務のひとつでもある。そのことによって、望ましい小学校教育の展開が可能になっていくとさえ言えるのである。

(岡山大学)